

# 《仮称》予科練 平和記念館だより



町教育委員会生涯学習課 ☎888-1111(327)

**ま**だまだ寒さ厳しい季節ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

2月は「如月」と表します。旧暦2月の呼び名ですがそのままでは「きさらぎ」とは読めません。これは中国で使っていた二月の異称をそのまま使っているからなのだそうです。「きさらぎ」という言葉は、寒くて衣を更に着る「衣更月」「着更着」からきたという説がありますが、そのほかにも暖かくなるという意味で「(生息)更来(きさらぎ)」、草木が生え始める「草木張月(くさきはりづき)」が転じたもの、という説もあります。実際には、旧暦2月は現在の3月ころにあたりますので、若干のずれはありますが、いづれにしても寒さの中にも春の訪れをかすかに感じる事ができる月、と言えるでしょう。

今月号は、予科練志願者につかの間訪れる春、第一次試験の合格通知証をご紹介します。

## ●予科練生への第一歩

飛行予科練習生の試験には、第一次の学力試験と身体

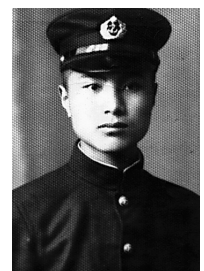
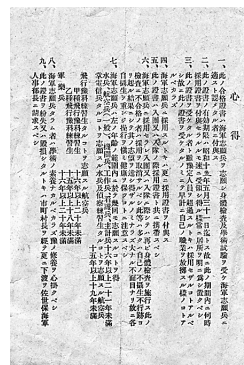
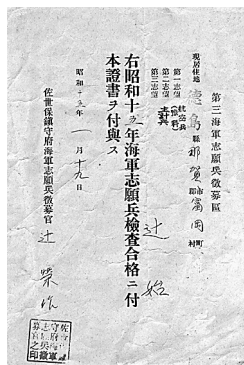
検査、第二次の口頭試問と適性検査がありました。学力試験は二日間に行われ、一日目は数学、物理・化学、国語・漢文、二日目は英語、地理、歴史の、一科目1時間半から2時間の試験でした。また、身体検査では身長・体重・胸囲のほかに、肺活量やどのくらい呼吸を止めていられるかなども検査されました。特にパイロットを目指す予科練生にとって視力は重要でしたので、両目とも裸眼で1.2程度(当時視力検査の最高値は1.5)なければ合格は難しかったといえます。こうした試験をクリアすると、各鎮守府(海軍の根拠地)より合格通知証が届きました(※)。

二次試験の案内は「出頭通達書」として届き、合格すると「採用通知書」が届いて正式に入隊となります。(※)合格通知証ではなく、出頭通達書が送られることもあったようです

写真は、乙種第14期予科練生、辻始(つじはじめ)さんの合格通知証です。辻さんは大正12年11月1日、徳島県富岡町に6人兄弟の次男と

して生まれました。幼少のころよりとても優秀だったようですが、家庭の事情により進学せず、昭和15年8月に16歳で霞ヶ浦海軍航空隊に入隊、予科練課程を首席で卒業しました。しかし昭和18年7月、静岡県御前崎沖にて出撃中に亡くなられました。享年19歳でした。

町には、辻さんが予科練で使用したノートや日記、亡くなられた時に身につけていた時計など100点以上の資料



▲下士官姿の辻始さん

▲合格通知書(左)と裏面(右)

身長	体重	胸囲	胸郭拡張
153cm	43kg	74cm	5.5cm
肺活量	握力左右	呼吸保留	視力
2,700 ml	45kg	45秒	1.0

▲身体検査の規定(16歳未満の場合)

『海軍飛行予科練習生第1巻』(小池猪一編著・昭和58年)より

料が実弟猛氏(荒川本郷)により寄贈されています。几帳面につづられたノートや遺書の筆運びなどから、辻さんの真面目な人柄が感じられます。またたくさんの資料をきちんと保管されていたご家族の思いも察してあまりあるものがあります。合格するのはだれでもうれしいものです。しかし予科練の合格証は、特にご両親にとっては複雑だったかもしれません。